

今日の 話題

取締役島耕作

最近漫画が読めるスマホアプリが数多くあり、その中に島耕作シリーズがあった。島耕作は今更説明不要の人気漫画だが(参考:日経新聞に社長就任の記事が出た)、彼は取締役の時に上海に駐在している。中国出張に行けなくなった昨今、中国の空気を嗅ぎたく久しぶりにページをめくることとした。

駐在(連載)は2002年から05年、浦東新区の摩天楼には環球金融中心(新森ビル)はまだない。黄浦江の観光トンネルを通るシーンでは、小職も日本のお客様をここに案内した際に、「島耕作もこのトンネルを通りました」という説明に「おお、凄い!」という、よく考えると少し変なやり取りをしたことを懐かしく思い返した。

そして作品内に三室氏という現地コンサルタントが登場するのだが、このモ

デルとなったのがキャストコンサルティング代表の三戸先生(公認会計士)である。三戸先生は中国の第一人者で大変お世話になったのだが、残念ながら2015年にお亡くなりになられた。しかし久しぶりにお会いできたことが嬉しい。

ただこの作品を改めて読むと、作者がよくここまでの調査・取材をされたものだと感服する。当時の日本はまだ経済規模で中国を上回っており、元気のいい日本人駐在員が中国で奮闘する世界観である。一方で北京の中関村がいずれ世界のシリコンバレーになる、中国は日本を追い越し、先進国への輸出ではなく中国内需の取り込みがビジネスポイントになる、そして日本製品の競争力が低下してゆく等々があり、今まさにその通りになっていることに驚く。

当時の日本は海外製造シフトが進む中、先端技術や知財を高めて国力を維持すべきとの考えがあったが、残念ながら特許出願数や研究開発予算額でも中国に追い抜かれてしまった。日本がもう一度元気を取り戻す、いや、今までのとは違う新しい活力を得るにはどうしたらよいか、島耕作に是非聞いてみたい。

(金本勲相 BP アジアコンサルティング代表・公認会計士)